



青野太潮 [著] 西南学院大学名誉教授、最初期キリスト教史
平尾バプテスト教会協力牧師

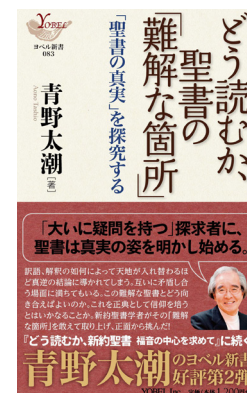
どう読むか、新約聖書

福音の中心を求めて



ヨベル新書 064

好評 4 版出来!



新書判・288 頁・1,320 円
再版 本体 1200 円 + 税
ISBN978-4-909871-79-4 C0216

重版案内 (2023.6.1 4 版出来予定)

青野太潮 これならいける! の新約学。

聖書学の常識は、信仰のヒジョウシキ。
この逆説と乖離の荒海を、いざ航海。

「青野先生は基督教の『常識』にいつも挑戦されているのですね」といった類のことを言われることがあります。しかし私が挑戦しているのはむしろ、少しでも新約聖書学の「常識」を日常の基督教信仰のなかに取り入れたい、ということです。しかしそれらふたつの「常識」は、多くの場合、厳しく相対立していますので、ことはやっかいです。(本文より)

主な目次

一章 どう読むか、聖書 —— 福音の中心を求めて ——

- ・『パウロ 十字架の使徒』で展開したことがら
- ・そのキリストにパウロは回心において出会った
- ・イエスの教えを継承するパウロの「信仰義認論」、ほか

二章 〈処女降誕〉物語をどう読むか

- ・当惑の理由
- ・イエスの「処女降誕」物語をどう読むか
- ・「処女降誕」物語は読者によってどのように受け止められるのか
- ・マルコは何をかたるのか、ほか

三章 〈贖罪論〉を、そして〈復活〉をどう捉えるか

- ・基本にある「インマヌエルの原事実」
- ・十字架の神学
- ・「福音の中心」としての「さいわいなるかな」と神の無条件で徹底的な愛とゆるしの福音
- ・「神理解」が問われている、ほか

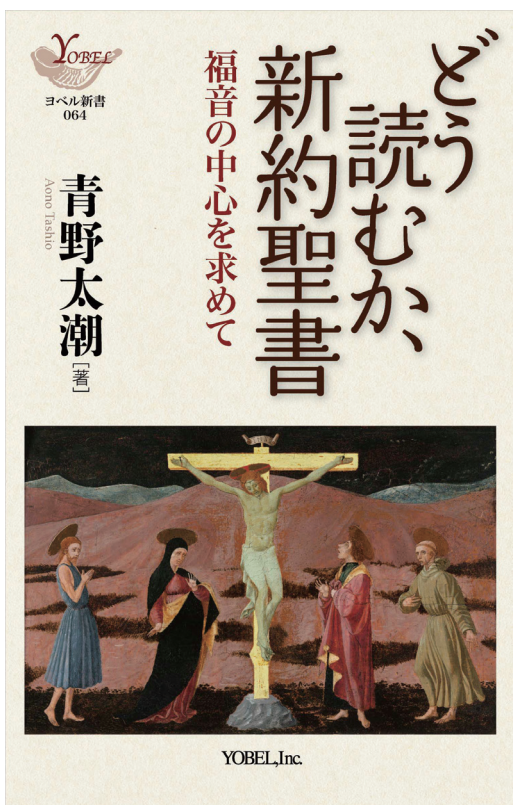
四章 イエスとパウロ

- ・パウロは歴史上のイエスに無関心?
- ・ヘレニストによる橋渡し?
- ・なぜイエスの言葉への言及はこんなに少ないのか、ほか

あとがき

著者紹介 青野太潮 (あおの・たしお) 1942 年静岡県生まれ。国際基督教大学、東京大学大学院を経て、スイス・チューリッヒ大学神学部博士課程修了。神学博士号 (Dr. theol.) 取得。現在一西南学院大学名誉教授、平尾バプテスト教会協力牧師、日本新約学会前会長 (2009 年—2017 年)。専攻：新約聖書学、最初期キリスト教史。

著書：『「十字架の神学」の成立』(ヨルダン社/新教出版社)、『「十字架の神学」の展開』『「十字架の神学」をめぐる』『最初期キリスト教思想の軌跡』(ともに新教出版社)、『パウロ書簡』『聖書を読む 新約篇』、『パウロ 十字架の使徒』(ともに岩波書店)、『十字架につけられ給ひしまるキリスト』(コイノニア社/新教出版社)、『どう読むか、聖書の「難解な箇所」』(ヨベル) その他、共著、訳書、多数。



新書判・240 頁・1,210 円
本体 1,100 円 + 税 ISBN978-4-909871-31-2 C0216